

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071200804
法人名	医療法人 永寿会
事業所名	グループホーム シーサイド
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区今津3810番地 (電話) 092 - 806 - 9067

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	23 人	常勤	16人, 非常勤	7人, 常勤換算	18.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(光熱水費)21,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食代に含む
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	シーサイド病院 / 川添記念病院 / 宮本歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院の中にグループホームがあり、ホームの主治医として併設医療機関の特定の医師を確保している。健康面で気になることはこまめに相談しており、緊急時も含め必要な診療が受けられるように支援している。併設医療機関の看護師とも連携し、医療面でのアドバイスを受けながら、入居者の日常的な健康管理や医療活用を支援している。エレベーターで1歩入ると、広々としたゲストルームがあり、その両脇に1丁目・2丁目と称される2ユニットがある。ユニットの居室は全室南向きで1番地・2番地と名づけられ、町内会長の札も下がっている。創立以来、勤務者も固定し、管理者・計画担当者各自の役割が確実に担い、職員も認知症のエキスパートとして業務に当たっている。周辺には今津福祉村と云われる福祉関係施設が多く、共同の行事などの参画や、地域の小・中学校との交流が行われている。当ホームの母体が医療という強みと人材・福祉機能のネットワークなどを含め、条件と環境に恵まれたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の研修には日頃より懸念していたことであった。今回から職員の段階に応じて受講できるように配慮している。計画担当者を中心にセンター方式を取り入れ、入居者の希望・意向にそえるようにサービス計画の充実と実践に結びつけているところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価を業務の見直しの機会として活かしている。必ず職員各自が自己評価を行うように用紙を渡し、それぞれの表現で自由に書いてもらった。それぞれの担当・役割にそって内容の検討を行い、業務の再認識や教育的な効果を高めている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	年に3回は大きなイベントの際に、例えば敬老会・クリスマス会に合わせて会議を開催している。入居者及び家族・町内会長・民生委員の出席がある。多くの出席者を期待し日曜日に開催するなど工夫している。会議では、グループホームの情報発信や、活動状況などの報告を行うほか、参加者の意見や要望を聞き、サービスの質の向上につなげている。また、認知症や感染症などのテーマで勉強会としても活かし、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居時に苦情相談の窓口担当者・市・国保連などの窓口を紹介している。ホームに意見箱を設置している。来訪時やケアプラン見直し時に意見や要望をうかがっている。相談や苦情のファイルがあり、職員が情報を共有し改善を図っている。法人のサービス向上委員会に当ホームからも1名出席し、法人全体のサービスの質の向上にも努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会には、母体である病院が加入している。地域の中学校2校から職業体験の学習を受け入れ、入居者も生徒とのふれあいを楽しんでいる。3B体操などのボランティアも受け入れている。地域の運動会や文化祭に参加したり、住民向けの認知症に関する研修への講師派遣を行ったり、地域との交流を活発に行っている。運営推進会議・住民向け研修への講師派遣などを通じてホームの情報発信も行い、地域ボランティア・民生委員・公民館・消防署・飲食店など地域の方々にも理解を得ながら協働している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	事業の目的の中で家庭的な環境と地域住民との交流のもとで入居者が可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援することを謳い、その理念を具体化するために地域密着型サービスの役割を盛り込んだホーム独自の運営方針を掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	グループホームの理念を施設内に掲示しており、毎日朝礼にて職員全員で唱和し理念の確認を行い、その実践に取り組んでいる。また、入居時や運営推進会議・地域住民向けの研修会などの機会をとらえ、グループホームの理念の紹介や説明をしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会には、母体である病院が加入している。地域の中学校2校から職業体験の学習を受け入れ、入居者も生徒とのふれあいを楽しんでいる。3B体操などのボランティアも受け入れている。地域の運動会や文化祭に参加したり、住民向けの認知症に関する研修への講師派遣を行ったり、地域との交流を活発に行っている。運営推進会議・住民向け研修への講師派遣などを通じてホームの情報発信も行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回の評価を業務の見直しの機会として活かしている。必ず職員各自が自己評価を行うように、用紙を渡しそれぞれの表現で自由に書いてもらった。それぞれの担当・役割にそって内容の検討を行い、業務の再認識や教育的な効果を高めている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	年に3回は大きなイベントの際に、例えば敬老会・クリスマス会に合わせて会議を開催している。入居者及び家族・町内会長・民生委員の出席がある。多くの出席者を期待し日曜日に開催するなど工夫している。会議では、グループホームの情報発信や活動状況などの報告を行うほか、参加者の意見や要望を聞き、サービスの質の向上につなげている。また、認知症や感染症などのテーマで勉強会としても活かし、地域密着型サービスの役割を果たしている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	相談・事故報告などを行い、また、介護保険の更新手続きや担当ケースワーカーなど機会ある毎に連絡を行い連携を図っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見制度の利用があり、診断書の取得などについては必要な支援を行っている。入居時には、本人や家族に説明をしている。運営推進会議では、制度についてパンフレットを利用して説明している。また、管理者や計画担当者が参加した外部研修の伝達や内部研修を行っている。年々、制度の利用は増加すると考えられ、今後も毎年、外部研修の参加を予定している。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、ホーム便りと領収書を添付した出納明細書を郵送している。面会など来訪される家族には口頭で報告を行い、遠方の家族には文書で報告している。入居者の状態変化などには早急に電話連絡を取っている。また、行事の案内や外出・外泊の支援などを行い、家族と良好な関係が継続できるように努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時に苦情相談の窓口担当者・市・国保連などの窓口を紹介している。ホームに意見箱を設置している。来訪時やケアプラン見直し時に意見や要望をうかがっている。相談や苦情のファイルがあり、職員が情報を共有し改善を図っている。法人のサービス向上委員会に当ホームからも1名出席し、法人全体のサービスの質の向上にも努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	グループホームの性格や特徴を重視し、法人内の併設施設への異動は基本的に行わないようにしている。ただ、職員の視点を新たにするために、年に1回ユニットごとの異動を行っている。定時退社や計画的な有給休暇の取得など働きやすい職場環境に努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたって、年齢層はバランスよく配置している。また、職員の負担軽減のため、随時業務内容や手順の見直し・有給休暇の計画的取得・職員同士の親睦会などを実施し必要な支援を行い、ストレスの軽減に努めている。働きやすい勤務環境に配慮することにより、職員が気持ちのゆとりを持って勤務できるように支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人全体で、運営者・管理者の新入職時や現任職員に対し、個人の尊厳をテーマにビデオを用いた内部研修を行っている。ケアの現場でも入居者に対する言葉づかいなど、人権を損なうことがないように職員同士でお互いに注意をしたり、話し合いを行ったりしている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	計画的に研修が受講できるように支援している。また、外部研修や資格取得をすすめ、個々の向上心を啓発できるように努めている。勤務して3年経過した職員については、介護福祉士の資格を基本的に取得してもらうようにすすめている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	母体である法人は福岡市介護保険事業者協議会の幹事を務めている。ホームの管理者も他事業所とのネットワークの中でフェスタの運営など多様な活動を行っている。協議会主催の研修に職員参加・相互訪問・情報交換を行い、当ホームを客観的にとらえる機会にもなり、サービスの質の向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には1回は必ず入居者・家族にホームを見てもらい、また、面談を重視している。入居後は家族の頻回な訪問など協力をお願いしている。帰りたいという願望はそのまま受け入れ声かけや見守りにより支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の興味・関心を知った上で、その方の過去の経験・知恵をうかがっている。認知症の方であっても、高齢者の方の礼儀・物を大事にされること・感謝の気持・人の役に立ちたいなど人間としての基本を学ばせていただいている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式の活用や日々の生活の中で何気ない会話や聞き取りから希望や意向を把握している。意思表示が困難な方は行動パターンや表情から汲み取っている。		アセスメントツールが詳細に作成されている。しかし空欄の箇所もあり、全体像がつかめない。入居時には家族もあわただしい中、落ち着いた対応ができないと考えられる。サービス計画を見ていただく時などに意図的に聞かれるとその入居者の生活歴や生活環境・家族関係などが充足してくると考えられる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者や家族の希望や意向をふまえ、主治医の指示・受け持ち職員の考えを入れて作成している。日々のケアプランにそった生活記録が書かれ計画と実践がともなっている。		2ユニットそれぞれに専門の計画担当者があり、センター方式を取り入れながら計画を作成している。しかし計画に至るまで経緯が計画担当者専用の別ファイルにとじてあるので関連性が見えにくい。家族や職員に、なぜこの計画に至ったかの説明の工夫をされることが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	サービス計画の実施期間の終了にはモニタリングとケアカンファレンスが行われている。実施期間中の変化があれば、その都度見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	その時々々の要望に応じて対応している。自宅周辺のドライブ・美容院・外食・お墓参り・自分好みの洋服を選んでいただく買い物などの希望の外出や外泊は日程調整を行い支援している。病院併設の24時間医療連携やその他の歯科・耳鼻科・整形外科など受診も柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の希望する医療機関で受診していただくようにしているが、ほとんどの方が協力医の診察を希望している。定期的に往診があり、担当看護師とホームの職員が付きそい健康状態を詳細に報告している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の対応について、入居契約時に説明し同意をいただいている。また、入居者の体調の変化にともない、入居者・家族・主治医・ホーム関係者と協議している。医療関係者と連携をとり、入居者・家族の意向にそってホームとして可能な範囲で支援している。決定事項は全職員で共有している。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の性格・職業歴などの生活歴をふまえ、その方にとって適切な声かけや対応をしている。職員には個人情報保護について、誓約書を提出させている。特に職員には、プライベートな場面での守秘義務を注意している。調査の当日には目の不自由な方にも、それとは感じさせない自然な会話や対応をされていた。</p>		
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の体調や気分・能力に応じた各自の生活リズムを尊重して対応している。起床・就寝時刻や食事・入浴も要する時間は異なるが健康上支障のない範囲でマイペースで過ごしていただいている。マイペースといえども、日中は基本的に起床していただき、決まっているレクリエーションには声かけをすることがあくまでも入居者の希望にそっている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>厨房の出入りは自由で、入居者が関心のあるものや、できることを手伝っておられた。煮物のおい・厨房の音・食材の色合いなど五感を活かして食事を楽しんでいただいている。食事では職員も同テーブルにつき、同じ献立をいただき、会話を楽しみ、さりげなく介助を行っている。月1回は外食に出かけている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>原則として1日ごとの入浴であるが、希望によってシャワー浴・清拭に切り替えたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。入浴拒否の方には、無理強いをせず、時間を置いて声をかけたり、職員を変えたりなど声かけなどを工夫し、気持ちよく入浴ができるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の生活歴や日常生活動作から把握し、職員がそれらについて情報を共有し、それらを活かすように支援している。日頃から調理を手伝っていただく方・厨房のソファが気に入っている方など、それぞれに楽しみごとがもてるように支援されている。現在、センター方式を取り入れているので、多面的な見解が集約されると、入居者個々の役割や楽しみごとの掘り起しが更に期待される。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望や好み、また体調をふまえながら、月1回の外食や地域の運動会・文化祭など買い物に外出している。当グループホームの立地条件もあり、戸外の散歩が困難なことも考えられるが、病院の1階フロアの中庭には季節の移り変わりがわかる植え込みがあり、それらを観賞する散歩などもよいと思われる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	居室のベランダ側のガラス戸は非常時用になっているので施錠している。その他はエレベーターの前のガラス戸など施錠していない。入居者の所在や行動パターンの把握に努め、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防計画・防災マニュアルを策定し、年に2回、そのうち1回は消防署立会いで避難誘導の訓練を行っている。堅強な病院の一角にあるので、出火によって2ユニットのどちらに避難するのかなど検討・実施されている。母体病院として、地域住民の協力体制の依頼を行っている。グループホームとしては、まず、病院職員の協力体制が優先すると考える。地震・台風などの災害で生活ラインの遮断も考慮され、非常食が完備されていた。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	管理栄養士の献立をもとにユニットごとに調理している。入居者の年齢・体重・活動量から、また、糖尿病の方など医師の指示に基づき主食・副食の量を調整している。水分量も1日最低1リットルは摂取していただくように支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	2ユニットの共有空間は広く、窓が大きく快適な空間で、きめ細かに採光の調節がされている。両ユニットのリビングはそれぞれ厨房に近く、家庭でのお茶の間の空間になっており、テレビの音や職員の会話がどことなく聞こえてくる安らぎがある。調理のにおい・掃除機の音・季節ごとの花や飾り物・毎日の日めくりなど五感を刺激する暮らしの工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には洗面台・クローゼット・カーテンが備え付けている。その他は入居者・家族の意向でお気に入りの家具やテレビ・仏壇などを自由に持ち込まれている。できるだけ思い出の多い品物を持ち込まれるようお願いしている。目の不自由な方も御自分の居室やトイレのノブなど、さり気ない工夫がされている。なじみの居室で、その人らしく生活できる支援がされていた。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			